



京大病院広報

●KYOTO UNIVERSITY HOSPITAL NEWS●

平成24年度京大関係病院長協議会定例総会を開催



開会挨拶を行う三嶋病院長



開会挨拶を行う湊医学研究科長

本文 6ページをご覧ください

CONTENTS

- ① 京大病院における臨床実習と研修について 2
医学教育推進センター長・医師臨床研修部長 / 小西 靖彦
- ② 最先端医療シリーズ 3
「急性期心疾患の生存率向上、
Structural Heart Disease治療の発展に向けて」
心臓血管集中治療部(Cardiovascular Care Unit:CCU)
病院特定助教 / 今井 逸雄
- ③ 医療安全管理室だより 第7回 MEセンター ... 4
医療安全管理室長 / 松村 由美
- ④ 読者より 5
「空と海の南国土佐」
高知総合リハビリテーション病院 病院長 / 山澤 増宏
- ⑤ トピックス 6
- ⑥ 名物職員紹介 13
- ⑦ 各科・部からのメッセージ 14
- ⑧ 栄誉 14
- ⑨ お知らせ 14

次代の医療を担う看護師になる。



〈看護師募集中〉

[URL] <http://www.kuhp.kyoto-u.ac.jp/~wwwkango/>

京大病院の基本理念

- (1) 患者中心の開かれた病院として、安全で質の高い医療を提供する。
- (2) 新しい医療の開発と実践を通して、社会に貢献する。
- (3) 専門家としての責任と使命を自覚し、人間性豊かな医療人を育成する。

発行 京都大学医学部附属病院広報部会
〒606-8507 京都市左京区聖護院川原町54
[FAX] 075-751-6151 [URL] <http://www.kuhp.kyoto-u.ac.jp>

ご意見、ご感想をお待ちしております。また、原稿の投稿も歓迎いたします。

wwwadmin@kuhp.kyoto-u.ac.jp

1.京大病院における臨床実習と研修について

医学教育推進センター長・医師臨床研修部長／小西 靖彦



京大病院は、日本で
有数の医学教育病院と
して使命を果たしてい
ます。ここにたくさん
の研修医と学生がいて
ることをご存知でしょ
うか。

研修医とは、卒後二年目までの医師で、さまざま診療科をローテーションして臨床の実地で学びつつ、患者さんの診断と治療に携わっています。京大病院に入ってくる毎年80名～100名の研修医数は、全国の五指に入ります。一部は、うち一年を京大の歴史ある外部関連病院に行って、協力して研修しています。

一方、京大の医学生は5・6年生が京大病院で学んでいます。学生の間は実習とよばれ、病棟で患者さんから病気について病歴を聞いたり、上級医と一緒に医療に参加しながら勉強したりしています。ここでも、一部は関連病院で実習をしています。

京大病院は、その理念に「人間性豊かな医療人を育成する」と謳っています。明日の医療を担うすぐれた医師を育成するために、『私たち』がすべきことは何かを考えてみましょう。

医療をとりまく状況は、日々変化してきています。医学知識は膨大になり、身につけるべき医療技能も増加しています。患者さんへの十分な説明や、先端医療に関わる上の法的な対応など、ひと昔前にはなかった学習が増え続けています。医学生も研修医も、ただ本を読んで勉強していた時代は昔になりました。覚えるより問題を解決する能力を、臨床の現場で身につけることが必須となってきたのです。

また、医学教育の世界には国際化の潮流が押し寄せてきています。日本で勉強したことが外国でも通用するように、我が国の医学教育も少し工夫する時が来ています。

卒業前の分野では、臨床実習の量と質の向上がこれから数年かけて計画されています。現在約50

週の実習を、二年かけて70週以上に増加させます。もちろん、ただ量を増やせばよい医師が生まれるわけではなく、実習の質の向上が必須です。最近よく“アウトカムを示す”と言われます。卒業時に医学生がどのような能力を身につけているか……がアウトカムです。十分な医学知識もその一つですが、それだけではありません。世界的に有名なカナダのアウトカムは、「コミュニケーション、協力、マネジメント、健康増進、研究、プロフェッショナル、専門家」の七つを医師の役割としています。京都大学の卒業生が身につけるべき能力について、今、再定義を行っています。この考え方では、作った目標が達成されているかしっかり「評価する」ことが重要です。知識だけならペーパーテストでOKでしたが、いろいろな能力を測定する仕方を診療科と作っています。

学生実習が充実すると、必然的にあとに続く卒後臨床研修も変わっていきます。医師免許を持っているので、より深い能力、実際の医療行為を行える能力が問われます。研修が終わったときには、基本的な疾患に対する対処（プライマリ・ケア）を自身でできる医師を育てていくことが私たちの使命です。

先ほど、人間性豊かな医療人を育成するために、『私たち』は何をすべきかと述べました。その私たちとは誰でしょう。もちろん先輩の医師たち（京大病院の優れた指導医）がそれにあたります。それとともに、看護師、薬剤師、技師など医療に関わる者すべてが医師の育成に関わります。これは、IPE（Inter-Professional Education）といわれ、近年世界中で発展してきました。そして、もうひとりの大切な協力者が、患者さんです。といっても、患者さんが若い医師に何かを教えてもらう必要は特にありません。古くから、医師は患者さんと対話し、ともに考えながら病気と立ち向かってきました。医師は患者さんを通して学習を深めてきたのです。若い医師が真剣に病気に立ち向かう際に、患者さんの目線から見守っていただく、それで十分です。将来の日本の医療を担う、京都大学の研修医と医学生の教育にご協力をお願いいたします。

2.最先端医療シリーズ

急性期心疾患の生存率向上、Structural Heart Disease治療の発展に向けて

心臓血管集中治療部(Cardiovascular Care Unit: CCU)病院特定助教/今井 逸雄



CCU とは

CCUとは集中治療部門に属します。以前は、一人の重症患者さんに対して、それぞれ病棟で主治医が対応していましたが、医師ひとりではできないことには限界があります。これに対して一箇所でチームを組んで治療にあたる方式が考えられました。生命の危機に瀕した重症患者さんを、24時間を通して濃密な観察のもとに、先端医療を駆使して集中的に治療する部門です。循環器疾患における集中治療は歴史的にはコロナリー・ケア・ユニット(Coronary Care Unit)として開設されました。コロナリーとは冠動脈のことを示す英語です。これを訳せば冠疾患集中治療部となります。CCUは重症患者さんの中でも、急性心筋梗塞や狭心症などの心臓発作の患者さんに限って集中治療を行う部門なのです。これはCCU発症の地である米国では、急性心筋梗塞の発症が極めて多く、心臓発作といえば心筋梗塞を意味していたからです。一方、日本では急性心筋梗塞は増加したとはいえ米国に比べれば患者数も少なく、また再開通療法の普及に伴い、心筋梗塞の患者さんの回復も速やかでスムーズなものとなってきています。このため、CCUでは急性心筋梗塞や狭心症などの冠動脈疾患だけに限らず、心不全、動脈瘤などの血管疾患、重症不整脈、心臓血管外科での手術後の患者さんなど色々の心疾患の患者さんを収容して治療する施設へと変化しています。ですから京都大学病院の本施設でも略語としては同じCCUですが、心臓血管疾患集中治療を意味するCardiovascular Care Unitの頭文字を意図しています。

業務内容の特徴と実績

南病棟の一階に開設されたCCUは救急外来、心臓カテーテル室との動線も良く、機能的に設計されています。6床すべてに心電図・血圧などのバイタルサインのモニターが完備され、さらにPCPS、IABPといった補助循環装置の設置により重症患者さんへの対応や透析・CHDF(持続的濾過透析装置)などの血液浄化への対応も可能で、一床あたりの面積も広く、重症心疾患患者さんへも十分に対応できます。

CCUは平成18年度に開設され早や6年が経過しまし

たが、救急患者数も年々増加傾向にあり、施設としてより充実しつつあります。また、毎日の朝の回診や看護師とのカンファレンス、レクチャーなどを通して医師看護師の協力体制の元、日々重症患者さんへの治療・ケアを高いレベルで行っております。今後ますます紹介医や救急隊からの要請により速やかに対応し、患者さんに対して最良の高度医療を提供できるよう努力していきたいと思っています。

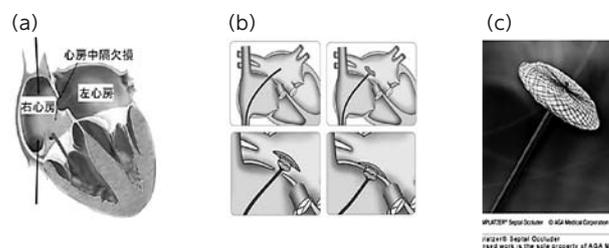
CCU入室対象疾患(以下の疾患を中心に対応)

- ・急性心筋梗塞 ・不安定狭心症 ・急性大動脈解離
- ・急性心不全、慢性心不全急性増悪 ・急性心筋炎
- ・重症不整脈 ・心肺蘇生を要する病態 ・肺塞栓
- ・心臓血管外科手術後 ・ハイリスクPCI術後

Structural Heart Disease 治療

また、近年、心臓の構造的疾患を対象としたStructural Heart Disease(SHD)に対する血管内治療に注目が集まっており当科においても心房中隔欠損症(ASD)(図1 a)に対する経皮的心房中隔欠損症閉鎖術を2012年より施行しております。ASDに対する治療は従来なら外科手術でしか治療できなかったASD治療をカテーテルという細い管を使って閉鎖デバイスを経皮的に心房中隔欠損に挿入し閉鎖する方法です(図1 b)。この治療では胸を切らずに、足の付け根の静脈(大腿静脈)から、細長く折り畳んだアンブラツター(Amplatzer)閉鎖栓とよばれる小さな道具(図1 c)を、穴の空いた壁のところまで送りこみ、穴をふさぎます。この治療のいいところは、足の付け根(そけい部)という目立たない場所から、ごく小さな皮膚の切開(数ミリ)で治療ができてしまうことです。低侵襲という特性から、より患者さんにやさしい治療となっており治療時間は1時間半程度であり治療後2-3日で退院が可能です。今後も新しい血管内治療に積極的に取り組み患者さんの為にご貢献できるように日々努力を重ねていきたいと思っております。

図1. ASD治療の概要



CCUでは入室対象疾患として、次の疾患を中心に対応しています。急性心筋梗塞、不安定狭心症、急性大動脈解離、急性心不全、慢性心不全急性増悪、肺塞栓、重

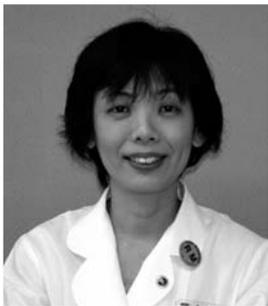
症不整脈、心肺蘇生を要する病態、急性心筋炎、心臓血管外科手術後、ハイリスクPCI術後です。



CCUスタッフ一同

3.医療安全管理室だより 第7回 MEセンター

◆医療安全管理室長／松村 由美



今回はMEセンターを紹介します。MEセンターは医療機器全般を扱っています。院内には人工呼吸器や人工心肺（心臓と肺の代わりにする装置）、透析関連の機器など生命維持装置、あるいは輸液ポンプのように

広く使用されている機器が多数あります。機器そのものがトラブルなく動くかどうか、保守点検を含む管理を行っているのがMEセンターです。例えば輸液ポンプやシリンジポンプ（図1）は病院内に約1,200台あります。これらのポンプ類は、正確に薬液を投入したいとき－例えば、降圧薬にて血圧を厳重にコントロールしたいとき、鎮痛薬にて疼痛をコントロールしたいとき－に用いますが、もし、精度が狂っていたら正確な投与ができません。病棟で使用したポンプ類は定期

的にMEセンターに搬送され、チェックを受けてから、再び貸し出しています（図2）。

国家資格を持った臨床工学技士が、MEセンターでこのような保守点検を行っています。「臨床工学技士さん」と呼ぶよりも、「MEさん」と呼ばれていることが多く、医療機器関連で困ったことがあれば「MEさ～ん、お願いします！」とひっぱりだこです。院内での必要性はますます増えています。



図1 MEセンターで保守点検を終了した輸液ポンプ・シリンジポンプ

「MEさん」は保守点検をするだけではありません。手術室での機械の管理や操作も行います。最近では、ロボット支援の手術も多くなり、より複雑で高度な手術を行うためには臨床工学技士の存在が不可欠です。

病院内で、患者さんが直接臨床工学技士と接する機会は少ないのですが、見えないところで治療を支えている、まさに「縁の下の力持ち」の臨床工学技士です。彼ら彼女らが常駐しているMEセンターは地下にあります。目立たない場所ですが「MEセンター」の表示を探してみてください。



図2 ポンプ点検中

4. 読者より

空と海の南国土佐 高知総合リハビリテーション病院 病院長／山澤 埜宏



高知総合リハビリテーション病院は高知市内にあり、久万川の悠々たる流れに囲まれています。南側には五台山があり、その上には牧野富太郎博士による高知県立牧野植物園が見られ、さらに四国八十八ヶ所参り三十一番札所の竹林寺があります。北側には山脈が連なり、その頂上には正連寺ゴルフ場があり、市内よりタクシーなら二十分程で行くことができます。

高知は南国であたたかく、鰹のたたき、長太郎貝、金目鯛、鯨などの新鮮な魚介類や野菜も豊富で食事も美味しく、果物も南国のメロンやマンゴーをはじめ、新高梨、小夏、文旦などその種類も多く楽しめます。

大学を定年退職して、少しゆっくと仕事をしたいと思っていた時にちょうど本院よりお話しがあり、当時の稲田雅美院長（京都大学卒、元京都通信病院院長）より職を引き継ぎ、既に七年が経過しました。

職員の努力により病院も次第に整備されてよい医療施設になり、経営も健全です。

本院は昭和五十二年に天王病院として開院し、昭和五十九年に高知愛和病院に病院名称を変更し、さらに平成十年に法人名称を愛和会から社団晴緑会に変更、平成十五年を高知総合リハビリテーション病院と現在

の病院名になりました。また平成17年より、日本医療機能評価機構の認定病院になっています。

病床数は255床でその内訳は障害者病床114床、医療療養病床88床、介護療養病床53床です。また職員数は常勤医師が9名、非常勤医師13名、看護職員90名、リハビリテーションでは理学療法士、作業療法士、言語聴覚士が合計18名、薬剤師5名、その他123名の合計258名です。

診療科目は、内科、循環器内科、消化器内科、そしてリハビリテーション科です。

ストレスが多く忙しい現役時代に比較しますと、この病院では腰を落ち着けて仕事ができ、人生を楽しむことができます。

最近では医師不足のためか、本院は京都大学関係病院にもかかわらず、京都大学からの赴任がなく、次期の院長候補者も決まっていません。ある程度のお仕事をされた後に、当院などで、高知大学医学部の学生に臨床実習を教えながら、日々の臨床を楽しく実施し、その合間に四国八十八ヶ所巡りの旅をするのもなかなか良い生活だと思いますが…。

どうぞ今後ともより一層の御支援御指導をお願い申し上げます。

5.トピックス

平成24年度京大関係病院長協議会定例総会を開催

9月14日に、平成24年度京大関係病院長協議会定例総会を時計台記念館にて開催しました。本協議会は、同会員である関係病院長が親睦を深めるとともに、医学の進歩発達及び病院経営の合理化を企画することを目的として年一回、定例総会を開催しているものであり、学内外から150名余りの参加がありました。



京大関係病院長協議会定例総会の模様

定例総会では、三嶋 理晃病院長及び湊 長博医学研究科長の開会挨拶、三嶋病院長からの京大病院報告の後、柳田 素子教授（腎臓内科長）、松田 秀一教授（整形

外科長）、椎名 毅教授（人間健康科学系専攻長・病院長補佐）、松原 和夫教授（薬剤部長）より新任者挨拶が行われました。引き続き、小西 靖彦教授（医学教育推進センター長）より、臨床実習について報告がありました。

また、定例総会終了後に開催された懇親会において、出席いただいた関係病院の先生方と本院の先生方による活発な情報交換が行われ、大変有意義なものとなりました。



総会後の懇親会の模様

京都府医師会と京大地区医師会の懇談会を開催

12月3日、「京都府医師会と京大地区医師会の懇談会」を開催しました。

この懇談会は京都府医師会の主催により、地区医師会との意見交換を通じて問題解決を図ることを目的に開催されています。今回、京都府医師会から森 洋一会長をはじめ副会長、理事に出席頂き、当院からは



開会の挨拶をされる京都府医師会 森 洋一会長

京大地区医師会会長の三嶋 理晃病院長を始め、10名が参加しました。懇談では「医学教育、研修教育と地域医療の連携」をテーマに京都府医師会の取り組みについて発表頂きました。当院の先生方の関心も高く、質疑応答では活発な意見交換が行われ、有意義な懇談会となりました。



意見交換を行う病院長

医療安全に関する講習会 「臨床工学技士の体制について」の開催

9月12日、医療安全に関する講習会「臨床工学技士の体制について」が開催されました。講演者は、医療器材部 副部長 山崎 和裕 先生です。

講習会では、臨床工学技士（ME：Medical Engineer）に関して、臨床工学技士法の制定のもと、国家資格を有する専門性の高い業務であること、次に京大病院における臨床工学技士の体制と実際の業務について説明されました。臨床工学技士が数多くの医療機器、多種多様な業務を担当していることを把握する機会となりました。

また医療機器の保守点検の重要性も説明され、管理体制の徹底を促されました。



講演された山崎先生

院内感染対策に関する講習会 「当院で問題となっている耐性菌について」の開催

9月25日、院内感染対策に関する講習会「当院で問題となっている耐性菌について」が開催されました。講演者は、感染制御部 助教 松村 康史 先生、看護部 山中 寛恵 副看護部長です。

講習会では、松村先生及び山中副看護部長より、耐性菌の特徴と主な感染経路について説明があり、そして当院及び他院の院内感染事例を検証することで院内スタッフの危機意識の向上につながりました。最後に院内感染の撲滅のため、院内感染対策の徹底を呼び掛けられました。



講演された松村先生、山中副看護部長

禁煙講習会 「喫煙率12%時代の禁煙支援～禁煙困難事例への上手な接し方～」の開催

9月27日、禁煙講習会「喫煙率12%時代の禁煙支援～禁煙困難事例への上手な接し方～」が開催されました。講演者は、呼吸器内科禁煙外来担当医 高橋 裕子 先生です。



講演された高橋先生

講習会では、パンフレット「禁煙支援のプロが答える 禁煙Q&A どうしてたばこを吸っちゃいけないの？」をもとに、高橋先生より、喫煙がもたらす体への悪影響、禁煙のメリット、禁煙の正しい方法などについて説明されました。中でも喫煙者にとって禁煙の継続が一番の課題ですが、医学的サポートを受ける、禁煙に対するポジティブなイメージを持つことによって乗り越える、これが何よりの秘訣であると説明されました。



配布されたパンフレット

保健診療講習会 「これからの保険医療政策」の開催

10月3日、保健診療講習会「これからの保険医療政策」が開催されました。

講演者は、厚生労働省保健局総務課 保険システム高度化推進室 加藤 源太 さん（当院OB）です。

講習会では、日本の保険制度から加藤さんが携わっている業務、レセプトの電子化やレセプト情報等のデータベースの第三者提供に関する仕組みと普及状況など、について説明されました。次に診療報酬改定の重点及び将来に向けた課題の抽出、先進医療の審査体制の見直し、慢性期入院医療を例にエビデンスに基づいた適切な評価の必要性について詳細に説明されました。

こうした保健医療政策の改定を押し進めていくためには正確な情報と合理的解釈が求められるため、政府や医

療従事者、大学といった学術団体、保険者等関係団体、そして患者さんが相互に連携し合うことが必要だと説明されました。



講演された加藤さん

医薬品安全使用のための研修会

「麻薬取り扱いを安全に行うために」、「麻薬等を用いた疼痛コントロールを適正に行うために」の開催

10月10日、医薬品安全使用のための研修会「麻薬取り扱いを安全に行うために」、「麻薬等を用いた疼痛コントロールを適正に行うために」が開催されました。



講演された薬剤部の岡村掛長

トロールを適正に行うために」が開催されました。講演者は、薬剤部 麻薬掛 岡村 みや子 掛長、情報掛 土生 康司 掛長です。

講習会では、まず岡村掛長より厚生労働省及び本院独自のマニュアルに基づいた麻薬の取扱い、管理体制の整備について説明されました。次に、土生掛長よりがんの緩和ケアを目的とした、麻薬等を用いた適正な疼痛コントロールについて説明されました。がんによる身体的苦痛が生じた際に疼痛緩和の目標の設定、及び適した製剤及び適量の使用、副作用対策の徹底などを行い、また使用に困った際は薬剤師やがんサポートチームと連携し、適切な治療を行うことが重要だと説明されました。

医療安全に関する講習会

「チーム・スポーツとしてのヘルスケア～TEAMSTEPPSを通して築く質の高いケア～」の開催

10月12日、医療安全に関する講習会「チーム・スポーツとしてのヘルスケア～TEAMSTEPPSを通して築く質の高いケア～」が開催されました。

講演者は、ミネソタ大学 准教授 カリン・バウム 先生です。

講習会では、バウム先生より、アメリカの医療現場における様々な課題を取り上げ、課題解決へとつながる手法として「チームワーク」が有効であると説明されました。そして質の高いチームワークを築くことを目的に開発されたのが「TEAMSTEPPS (Strategies and Tools to Enhance Performance and Patient Safety)」と呼ばれる研修教材です。この教材を使った研修内容について様々な事例をもとに説明され、大きな成果を生み出していることを説明されました。



講演されたバウム先生

チーム医療検討委員会主催による、第13回チーム医療カンファレンス講演会 「京大での肝移植におけるチーム医療の実践」の開催

10月16日、第13回チーム医療カンファレンス講演会「京大での肝移植におけるチーム医療の実践」の開催が開催されました。

講演者は、臓器移植医療部 准教授 海道 利実 先生、腎臓内科 特定病院助教 宮田 仁美 先生、南病棟4階 原田 久子 副看護師長、手術部 阿部 奈緒子 副看護師長、臓器移植医療部 梅谷 由美 看護師、薬剤部 河合 知喜 薬剤師、疾患栄養治療部 玉井 由美子 栄養士、リハビリテーション部 吉岡 佑二 理学療法士、の8名です。

講習会では、肝移植の概要と本院における肝移植の症例について触れられ、そして今後、肝移植のますます高度かつハードな医療現場に対し、安定かつ持続可能な肝移植体制を築くためにはチーム医療が必要不可欠であることを説明されました。

次に講演者の方々より、肝移植時におけるチーム医療の各自の役割について、チーム医療の取り組みを症例、データに基づいて詳細に説明され、本院におけるチーム医療体制の整備に積極的に取り組んでいることが分かりました。



講演された海道先生

医療安全・臨床倫理に関する講演会 「医療事故の本質:告知の技術を日常に」の開催

10月17日、医療安全・臨床倫理に関する講演会「医療事故の本質:告知の技術を日常に」が開催されました。

講演者は、日本医科大学付属病院 がん診療センター 部長 久保田 馨 先生です。

講習会では、「インフォームド・コンセント（同意）」を中心に、患者さんと医師、看護師を含む医療従事者との信頼関係の構築と気をつけなければならないことについて講演されました。

まず多くの方が「インフォームド・コンセント」は医師が行うものだと思っていますが、実は患者さんが行うものです。そして医師を含む医療従事者が患者さんへ行うものが「説明」です。説明には、「思いやり」と「コミュニケーションスキル」が必要であり、スキルに関してはきちんとした方法論を学び、実践することが重要だと説明されました。また、気をつけなければならないこととして「患者さんの同意」を得たからといって患者さんの思い通りの治療をすればよいという訳ではなく、医療従事者として最善の判断、行動が

なされているかどうか重要です。患者さんの権利と医療従事者の義務をそれぞれ適切に認識しながら、最善の治療にあたる、これが「インフォームド・コンセント」の正しい捉え方であることを説明されました。



講演された日本医科大学付属病院 がん診療センター 久保田 部長

院内感染対策に関する講習会 「HIV-1感染症/エイズ診療の実際」の開催

11月9日、院内感染対策に関する講習会「HIV-1感染症/エイズ診療の実際」が開催されました。

講演者は、血液・腫瘍内科長 高折 晃史 先生です。

講習会では、高折先生より、HIV-1感染症・エイズの診断及び治療について、及び日常診療における注意、そして京大病院における診療の現状について説明されました。

※ HIV ウィルスには HIV-1 と HIV-2 の2種類あります。



講演される高折先生

まずエイズは HIV 感染により引き起こされる免疫不全状態により種々の日和見感染・癌を発症する病態を指します。まず HIV-1 感染の有無について、抗体検査（スクリーニング検査と確認検査の二段階）を行うことによって陰性または陽性の診断ができます。日本では HIV-1 感染の抗体検査を受ける人が少なく、HIV 感染に気付かないまま、エイズを発症してしまう人が多くいます。医療従事者として患者さんへ抗体検査の推奨と患者さんを診断する上で HIV 感染の疑いを持つことが大切です。また医療従事者自身が「針刺し」に伴う HIV 感染のリスクも考慮しなければなりません。

また HIV ウィルスの構造や HIV-1 感染後の治療法などを様々なデータを用いられ、HIV 及びエイズについて詳細に説明されました。

医療安全に関する講習会 「除細動とバイフェージックの有用性」、「AED概要」、「シミュレーターを用いた、除細動、AED体験」の開催

11月12日、医療安全に関する講習会「除細動とバイフェージックの有用性」、「AED概要」、「シミュレーターを用いた、除細動、AED体験」が開催されました。講演者は、フクダ電子株式会社 クリティカルケア営業部 茅山 緑紀さん、初期診療・救急科 講師 佐藤 格夫 先生です。

講習会では、まず茅山さんより心室細動時における除細動の有効性と、除細動機について詳細に説明されました。引き続き、除細動機を用いて佐藤先生より「AEDの概要」と「シミュレーターを用いた、除細動、AED体験」について説明されました。その際、医療安全管理室長の松村先生、スタッフの方々が加わ



講演された茅山さん、佐藤先生

り、AED使用時のデモンストレーションを行いました。実際にこのような場面に遭遇した時、冷静かつ適切に対応するために、聴講だけでなく、今回は会場内に複数台AEDを置き、出席者にもデモンストレーションをしてもらいました。



AEDのデモンストレーション

院内感染対策に関する講習会 「院内における結核対策について」の開催

11月15日、院内感染対策に関する講習会「院内における結核対策について」が開催されました。講演者は、呼吸器内科・感染制御部 助教 伊藤 穰 先生です。

講習会では、伊藤先生より、まず結核に関する基礎知識として日本及び世界各国、そして日本の年齢別における結核罹患率、結核菌の感染様式（空気感染）、結核の診断について説明されました。

これらを踏まえ、医療従事者のすべき対応として、①結核が疑われたら、空気感染予防（患者さんの個室隔離、医療従事者のN95マスクの着用）を行う。②高齢者は感染率が高いのに対して症状や所見が非特異的で見逃されやすいので要注意。③結核発病の診断のために

は喀痰検査などの細菌学的検査を行う。④結核感染の診断は胸部画像所見、クオンティフェロンを総合して行う。⑤発病リスクのある患者さんの診療では結核を念頭に置き、あらかじめ化学予防（潜在性結核感染治療）を行う。といった点を踏まえ、対応することが重要であると説明されました。



講演された伊藤先生

医療安全に関する講習会 「転倒転落の現状」、「転倒予防は説明しだい：履き物への意識」の開催

11月26日、医療安全に関する講習会「転倒転落の現状」、「転倒予防は説明しだい：履き物への意識」が開催されました。講演者は、医療安全管理室 辻田麻衣子 専任看護師長、医学研究科人間健康科学科看護学専攻教授 若村智子 先生です。

講習会では、辻田専任看護師長より「転倒転落の現状」について、まず転倒転落の分析・評価は複数で行い、多角的に捉える。次に患者さんに転倒転落の予防行動の必要性、危険性を伝えるが、その際により具体的にわかりやすく説明し、協力してもらう。最後に転倒転落を予防できるよう、医療従事者間で情報を共有する。転倒転落が発生したらどんな事象でも報告する。これらに気を付け、行動することが重要だと説明されました。

若村先生より「転倒予防は説明しだい：履き物への意識」について履き物に伴う転倒リスクと予防策について

説明されました。入院患者さんの多くはスリッパを履いており、転倒しやすいリスクを把握している。患者さんに近い病棟スタッフは転倒を予防するために安全性の高い靴を履いてもらい、また履き方をしてもらうよう患者さんに促す。こうした働きかけを通じて転倒リスクを減らすことが重要であると説明されました。



講演された辻田専任看護師長(左)と若村先生(右)

院内感染対策に関する講習会 「感染性胃腸炎／インフルエンザの感染対策」の開催

12月11日、院内感染対策に関する講習会「感染性胃腸炎／インフルエンザの感染対策」が開催されました。講演者は、検査部・感染制御部 講師 長尾 美紀 先生です。

講習会では、長尾先生より、まず感染性胃腸炎について今年、各地で食中毒が相次いで報告されていますが、多くの原因としてノロウイルスが挙げられています。感染性胃腸炎の一種ですが、特徴として診断がつきにくく、接触予防策の周知だけでは制御が非常に難しいです。対策として院内で作成した対策判定



講演された長尾先生

チャートを踏まえ、行動することで感染拡大を防ぐことが重要であると説明されました。

次に1月から4月にかけて多くの人が発症するインフルエンザ。こちらも感染によって蔓延する病気のため、きちんと対策をとることが必要です。手洗いと、目に見えて汚れている場合は流水と抗菌石けんで手を洗う。目に見えて汚れていない場合はアルコール擦式手指消毒剤で手を消毒します。またせき、くしゃみをする時はエチケットとしてティッシュで覆う。その後はティッシュをゴミ箱に速やかに捨て、手を洗い、マスクをつける。

感染性胃腸炎、インフルエンザでは人から人への感染が多いため、こういった感染対策をきちんと把握し、行動することが重要であると説明されました。

「読響ハートフルコンサート」の開催

11月21日、外来診療棟1階アトリウムホールで「読響ハートフルコンサート」が開催されました。弦楽四重奏(ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ)といった構成で、モーツァルトやブラームスといったクラシック音楽から、クラシック調にアレンジした坂本九や美空ひばりの曲を披



多くの患者さんが来場されました。

露されました。最後は童謡「ふるさと」を演奏し、来場した患者さんたちもその曲に合わせて合唱を行いました。



今回、演奏を行った「読売日本交響楽団」4名
左から、山田友子さん(ヴァイオリン)、田村博文さん(ヴァイオリン)、
芝村崇さん(チェロ)、小山貴之さん(ヴィオラ)

「第7・8回プロムナード・コンサート」の開催

外来診療棟1階ウェルネスエリアで、音楽の仲間「花」のみなさんによる「プロムナード・コンサート」が開催されました。音楽の仲間「花」は京大・音楽大学等関係者が中心となって活動している音楽グループです。

今回の演目もバラエティに富んでおり、10月19日のコンサートでは、プッチーニやドボルザーク、ブラームスといった有名なクラシックから、小林秀雄や田村しげる、といった昭和歌謡曲まで幅広く演奏及び歌



ムスといった有名なクラシックから、小林秀雄や田村しげる、といった昭和歌謡曲まで幅広く演奏及び歌

を披露されました。12月14日のコンサートでは、シューベルトやバルトーク、モーツァルト、ショパンなど、たくさんの楽曲を合奏されるとともに、最終演目では出演者と患者さんと一緒になって「赤い靴」、「青い目の人形」を歌い、最後に相応しい大変な盛り上がりを見せました。多くの患者さんがこのコンサートに来場し、患者さんの大きな拍手で幕を閉じました。



第11回アトリウムホール映画上映会の開催

「アトリウムホール映画上映会」が12月6日に外来診療棟1階アトリウムホールで開催されました。この上映会は、入院患者さんを中心に夕食後のひとときを楽しく過ごして頂こうと企画し、今回で11回目の開催となります。

今回の上映作品はディズニーのフルCGアニメーション映画「モンスターズ・インク」(2001年※日本の上映は2002年)。内容について、モンスターが住む町「モンスター・シティ」にある「モンスターズ株式会社(モンスターズ・インク)」は、町のエネルギー源となる子供の悲鳴を集めるために、夜な夜なモンスターたちが子供たちを脅かしています。中でもサリーと親友のマイクは最強のコンビ。しかしそんなモンスターたちが最も恐



開会の挨拶をされる秋山看護部長

れるのが、有毒だとされる人間の子供です。ところがある日、人間の女の子ブーがモンスター・シティに入り込んでしまったため、サリーとマイクは会社に内緒でブーを人間界に連れ戻そうとします。心の優しいサリーと小さくて元気なマイクのでこぼこコンビは、次第にその可愛らしいブーに愛情を感じ始めます。そして、彼女との交流を通して、人間もモンスターも心は同じだということに気付いていく、といったお話です。上映会にはたくさんの患者さんが集まりました。

れているのが、有毒だとされる人間の子供です。ところがある日、人間の女の子ブーがモンスター・シティに入り込んでしまったため、サリーとマイクは会社に内緒でブーを人間界に連れ戻そうとします。心の優しいサリーと小さくて元気なマイクのでこぼこコンビは、次第にその可愛らしいブーに愛情を感じ始めます。そして、彼女との交流を通して、人間もモンスターも心は同じだということに気付いていく、といったお話です。上映会にはたくさんの患者さんが集まりました。



映画上映会の模様

「ウェルネスクリスマス会」の開催

12月18日にウェルネス研究会による「ウェルネスクリスマス会」が開催されました。「心の健康がからだの健康」をテーマに少しでも患者さんの癒しになるようにと開催されており、今年で7回目を迎えます。

クリスマス会では、クラシック音楽や琉球三味線とウクレレのセッション、ジャグリング、歌唱を披露され、バラエティに富んだ内容でした。

多くの患者さんが参加し、クリスマスらしい華やかな雰囲気の中で心温まるひとときとなりました。



琉球三味線とウクレレのセッションの様



ジャグリングの様

平成24年度消防訓練を実施

平成24年度第1回消防訓練を平成24年11月14日(水)、第2回消防訓練を12月21日(金)に実施しました。第1回消防訓練では、平日昼間(午後3時)、震度6弱の地震発生により北病棟の建物の一部が損壊し、同病棟6階(内分泌・代謝内科、老年内科、腎臓内科)で火災が発生したという想定、第2回消防訓練では、平日夜

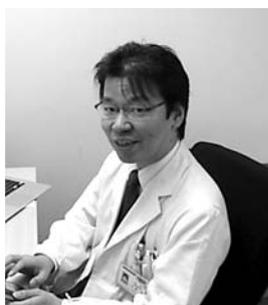
間(午前2時)に西病棟で火災が発生したという想定で、医師、看護師及び事務職員等が参加し実施しました。

また、第1回、第2回消防訓練では、左京消防署の指導のもと消火器の使用訓練を行ったほか、第2回消防訓練においては、起震車による地震体験を行いました。



6. 名物職員紹介

◆リハビリテーション部 助教/佐藤 晋



佐藤晋先生は昨年度まで当院呼吸器内科の医員として臨床や研究でご活躍されておりましたが、平成24年4月よりリハビリテーション部の助教に就任されました。また、呼吸器内科では病棟医長もお務めになられており、呼吸器内科とリハビリテーション部の二足のわらじを履いて、日々病院内を駆け回っておられます。このように、普段からご多忙な日々を過ごされているにも

かかわらず、我々セラピストの指導に関しても手を抜くところがありません。佐藤先生は夜遅い時間にリハビリ室に来て仕事をされることがよくあるのですが、私も病院に残っているときに臨床や研究のことで相談すると、仕事そっちのけでミニレクチャーをして下さいます。こうして、セラピスト一人ひとりのスキルアップにいつも貢献していただき、とても話やすく兄貴分のような佐藤先生は今ではリハビリテーション部には欠かせない存在になりました。佐藤先生、今後ともご指導宜しくお願い致します。

紹介者/リハビリテーション部 理学療法士 大島 洋平

◆高圧酸素治療室 助教/瀬尾 智



瀬尾 智先生をご紹介致します。先生は今年8月から高圧酸素治療室の担当医師になりました。普段は肝胆膵・移植外科で勤務されており、今回、初めて違う分野を担当されるということで、最初は戸惑われることも多かったようです。

そんな先生の趣味は自動車。大学生の時にアルバイトしたお金を元に、念願だったスープラを購入され、毎年、内装、外装に少しずつ手を加えて、結局、結婚後、3人

目のお子さんが生まれるまで14年間乗り続けたそうです。今の愛車のボルボも、すでに5年乗られており、やはり、少しずつ手を加えているそうです。時には改造しすぎて奥さんに怒られることも。それでも、愛車には手をかけたいと言われています。

このように車を大事にされる先生は、患者さんへの対応も大変丁寧で、高圧酸素室の運用にも1つ1つ確実に対応してくださり、すでに当治療室にとって、なくてはならない存在となっております。先生のこれからのご活躍に期待大です。

紹介者/高圧酸素治療室 臨床工学技士 新田 孝幸

7. 各科・部からのメッセージ

臨床研究に関するワークショップ開催

大学院教育コース「臨床研究」の合宿として、12月8日に臨床試験の立案演習のワークショップを実施しました。参加した大学院生は39人。今年度は、「新規の抗癌剤による癌を対象とした臨床試験、または疼痛緩和薬による疼痛を対象とした臨床試験を立案しなさい」という2つの課題を準備し、6つの班に分かれて回答を作成しました。完成度の高い計画やちょっと意外な計画もあり、参加者（と講師）にとって良い機会になりました。

文責／探索医療臨床部 助教 角 栄里子



8. 栄誉

医学教育等関係業務功労者として表彰 副看護師長／福田 麗子



文部科学省は、医学又は歯学に関する教育・研究もしくは患者診療等の業務に関し、顕著な功労のあった方々を対象に毎年表彰を行っております。平成24年度医学教育等関係業務功労者の表彰式が平成24年11月22日（木）に行われ、福田麗子医学部附属病院看護部副看護師長が文部科学大臣表彰を受けられました。

同氏は、鳥取大学医学部附属病院を経て本院に入職し、38年の永きにわたり、小児科、整形外科、皮膚科、内分泌・代謝内科、老年内科、麻酔科、免疫・膠原病内科で看護業務に従事し、多くの部署、診療科で培った豊かな経験と専門的知識を持って、患者中心の看護の構築に尽力されました。

また、平成4年からは副看護師長として、指導的立場で後輩に関わり、指導も丁寧で面倒見よく、自らも常に率先して看護技術の修得、開発に努力し、永年にわたる看護の経験を生かして、困難な業務を遂行すると共に医学教育に協力し、医療の発展に貢献されました。

9. お知らせ

院内保育所のご案内(京大病院保育所 きらら)

昨年10月から京大病院内に医療業務に従事する職員を対象に夜間保育を行う「京大病院保育所 きらら」が設置されました。仕事と子育ての両立のために極めて重要な役割を担っています。利用登録は総務課総務掛で随時申込みを受け付けてい



ます。まだ院内保育所を知らなかった方、夜間保育が必要になった方、ぜひご利用ください。



※院内保育所の利用条件は京大病院ホームページの「院内向け」より、「医学部附属病院保育所利用の手引き」から、ご確認ください。

今後の予定 12月12日現在

- <院内職員向け> 1月17日(木) 10:00～ 医療監視
 - <医療関係者向け> 2月11日(月) 15:00～ 第16回京大病院臨床懇話会(芝蘭会館稲盛ホール)
- 参加資格: 医療関係者 要申込: 総務課総務掛 (075-751-3005)